



開成

令和元年 7月 4日(木)発行

校長 津田 将美

仲間と 楽しむこと

「サッカーは、楽しくやることが大切。でも、仲間と楽しむことでもっと楽しくなるよ。」

「でも、楽しんでいない仲間がいるかもしれないね。」

「楽しめてない仲間に気づいたら、パスしてあげよう。」

「みんなで楽しめるとサッカーも、もっと楽しくなるよ。」

湘南ベルマーレの小学校体育巡回授業がありました。今年度は、6年生のサッカーの授業をご指導いただきました。今年度で2年目になる湘南ベルマーレの巡回授業では、ボール運動を通して、思いやり、協力、感謝することの大切さなどを教えていただいている。授業を観させていただきながら、学校体育の授業の中でも大切にしていかなくてはならないことがたくさんあると感じました。

そして、ふと、以前担任したTくんとSさんことを思い出しました。



私がまだ若かった頃のことですから、ずいぶんと昔の話です。でも、その日の授業のことは鮮明に覚えています。Tくんは、体育が得意でした。特に習っていなかったのですが、バスケットボールもとても上手で、いつも大活躍でした。

体育の授業の最後には、いつもふり返りを行います。その中で、友だちの良かったプレー、参考にしたいプレーなどを子どもたちに挙げてもらいます。Tくんはいつも大活躍ですから、その時間にも友だちからたくさんのお称賛を受けていました。でも、Tくんならもっと仲間にパスが出せるはず…。そう思って声をかけるのですが、「楽しさ」の中心である「得点を取る」ことはなかなか変わらないようでした。

Tくんのチームに、体育の苦手なSさんがいました。Sさんは苦手でも、あきらめず常にがんばろうとする子でした。でも、バスケットボールの授業では、一度もシュートを打つことができていません。Tくんのチームは、Sさんがシュートを打たなくとも、Tくんとその他の仲間の活躍で、ほとんどのゲームに勝利していたからです。

6年生のバスケットボールの最後の授業の時です。最終ゲームは、接戦でした。相変わらずTくんは大活躍で、得点を重ねています。相手も負けずに得点します。Sさんは、一生懸命動くのですがなかなかシュートの位置に入っても、相手に防御され、シュートすることができませんでした。最後のゲームなので、味方も相手も必死です。

接戦のまま引き分けで終わるかと思った時、Tくんがパスカットをしてボールを奪いました。ドリブルでがら空きのゴールに向かいいます。このままシュートを決めれば最後のゲームも勝利、という場面です。しかしその時、ゴール下にはSさんがいたのです。

ゴールの間近まで迫ったTくんは、Sさんに気づきました。

そして、シュートを打つことなく、Sさんにパスを出したのです。



Sさんのシュートは、見事に外れゲームは、引き分けで終わりました。

授業の最後のふり返りでは、シュートを打ったSさん、パスを出したTくんのことがベストプレーとして出されました。Sさんは、はにかんだような顔をし、Tくんは、照れくさそうでした。裏面に続く↓

その日から、Tくんは明らかに変わりました。周りの友だちへの配慮、特に困っている子へのやさしい行動が目に見えて増えていき、もともと明るかったTくんは、もっともっと明るくなりました。それは、自分の楽しさだけでなく、周りの仲間の楽しさも自分自身の楽しさとして受け入れることができたからでしょう。

Tくんが、そんな「仲間と楽しむこと」の価値に気づくことができたのは、たとえ勝利に結びつかなくても、一生懸命シュートにつなげたSさん、パスを出すことのできたTくんのプレーをベストプレーに選ぶことのできた周りの仲間たちのおかげです。そういう子どもたちに助けられていたことを今さらながら感謝の気持ちと共に思い出します。

今回の巡回授業は、私自身もとても勉強させていただきました。
湘南ベルマーレのみなさん、素敵な授業をありがとうございました。



何とも言えない良い写真がそろいました。6月21日に行われたピカピカ班あそびのふり返りの時間です。前に出ている6年生も笑顔、6年生の指示を聞く下級生も笑顔。とても素敵な写真です。その中の1枚を上に紹介しました。

実は、多くの班のふり返りの時間を写真に収めたのですが、どの班もこのような雰囲気でふり返りを行っていました。

高学年になると、どうしても「楽しませてあげる」立場になり、このような活動も「お仕事」のようなものになります。しかし、この「開物成務」でも何度か紹介しているように、共に楽しむことのできる笑顔が本校の「すてきさんたち」の伝統的な姿です。

仲間の楽しさを自分の楽しさと感じられる心のやわらかさ、広さ、あたたかさが本校の子どもたちには脈々と受け継がれています。だからこそ、ふり返りを行う表情も、みんな笑顔であたたかい雰囲気を作り出しているのだと思います。成長し続けるすてきさんたちは、先輩へのあこがれを通して、日々心を耕し続けています。



いのちの授業

今年度も、富川孝治先生を外部講師にお招きして、「魚のたんじょう」の授業が行われました。本校では毎年お願いしている「いのちの授業」です。

一人一人にいただいたメダカの受精卵を、5年生の子どもたちは、歓声を上げながら観察しています。そして、小さな小さな命の営みを自分の目で見て、発見したことを友だちと共有します。富川先生は、子どもたちの発見のひとつひとつを認め、説明を加えながら全体へと返してくださいます。新しい知識を得た感動、命の息吹にふれた感動が、今後の追究意欲につながっていくようです。

授業の最後に、いただいた卵の入った自分のケースを大切そうに持ち帰る5年生の姿が印象的でした。これから毎日、熱心な観察活動が続きます。

富川先生、今年度も開成小学校の子どもたちに「いのち」について教えていただき、ありがとうございました。

AEDが増設されました。
体育館フロア南側入り口正面にあります。



従来の職員室と応接室の間の職員玄関（南側）に設置されているものと合わせて、2台となりました。命を守る大切なツールですので、ご来校の折には、ご確認ください。